

加藤 哲郎著

「飽食した悪魔」の戦後

731部隊と二木秀雄「政界ジブ」

1932年に「滿州国」らびに梅毒の感染実験を指が作られて以降、1945年 押実行していた(二木班)。年の敗戦に至るまで、中国 もろろん、特定の個人だ東北(旧滿州)に關軍軍 けの戦後史であるのなら、防疫給水部(のち第731部隊と改称)があつて、少なくとも三千人以上の中國人らを人体実験で殺害していたといふことは、今日ではもはや史実と言つてよい。しかし、この歴史研究が日本ではじまったのは実に遅く、1981年に刊行されたベストセラーになった作家・森村誠一の「悪魔の飽食」がきっかけとなつて、本書のタイトルにある「飽食した悪魔」という語句も、そこから採られて

731部隊の戦後史研究も今日では拙著(「検証 人体実験」第三文庫2010)を高め多数にのぼり、いまや珍しいとすら言えない。しかしながら、本書は、かつての部隊員で実際に人体実験を行つた医師の二木秀雄という特定の個人におよびそれを取り巻く関係者の戦後の足跡を追つた、いわば異色の731部隊戦後史となつている。二木は金沢医科大学(現・金沢大学医学部)を卒業して細菌学教室へ入り、主任教授の推薦により731部隊陸軍中隊として派遣されたが、そこで悪名高い結核な

異色の731部隊戦後史

元隊員・二木秀雄の類稀な軌跡を中心に

小 俣 和 一 郎



飽食した悪魔の戦後

731部隊の戦後史の軌跡を追う。A5判・408頁・3500円 花伝社：発行 共栄書房：発売 978-4-7634-0809-9 TEL. 03-3263-3813

二木が戦後の日本で元731部隊員の同窓会(隊友会)ともいえる「精魂会」を組織し、かつて人体実験に携わった部隊員同士の間で連絡の要の役割を果たしている。たことから、二木に限らな元隊員の戦後の消息を交え、さらにアメリカ占領軍との731部隊員免責交渉の過程、つとに731部隊員の関わりが指摘されてきた東京・椎名町の帝銀事件(1948年)などにも触れて、広く関係者の動向を記述している。

また、本書が多くのペーシを割いて述べているのは、副題にもある「政界ジブ」という二木が創刊した通俗的時局雑誌の内容と、この雑誌を介して二木にまる企業恐喝事件についてである。二木は戦後、故郷の金沢へ戻り、その後上京して銀座で雑誌出版社をつくる。そこから刊行されるのが「政界ジブ」で、当時の共産系雑誌「真相」と対照的な位置にあった。前者が右派的内容をもつて731部隊の存在そのものを隠蔽しようとしたのに対し、後者は逆に二木らの人体実験を暴露した(1950年4月号)。

しかしながら本書は、企業恐喝事件が起こり、二木は有罪判決を受けて懲役三年の実刑に処せられる織り、かつて人体実験に携わった部隊員同士の間で連絡の要の役割を果たしている。たことから、二木に限らな元隊員の戦後の消息を交え、さらにアメリカ占領軍との731部隊員免責交渉の過程、つとに731部隊員の関わりが指摘されてきた東京・椎名町の帝銀事件(1948年)などにも触れて、広く関係者の動向を記述している。

また、本書が多くのペーシを割いて述べているのは、副題にもある「政界ジブ」という二木が創刊した通俗的時局雑誌の内容と、この雑誌を介して二木にまる企業恐喝事件についてである。二木は戦後、故郷の金沢へ戻り、その後上京して銀座で雑誌出版社をつくる。そこから刊行されるのが「政界ジブ」で、当時の共産系雑誌「真相」と対照的な位置にあった。前者が右派的内容をもつて731部隊の存在そのものを隠蔽しようとしたのに対し、後者は逆に二木らの人体実験を暴露した(1950年4月号)。

二木が戦後の日本で元731部隊員の同窓会(隊友会)ともいえる「精魂会」を組織し、かつて人体実験に携わった部隊員同士の間で連絡の要の役割を果たしている。たことから、二木に限らな元隊員の戦後の消息を交え、さらにアメリカ占領軍との731部隊員免責交渉の過程、つとに731部隊員の関わりが指摘されてきた東京・椎名町の帝銀事件(1948年)などにも触れて、広く関係者の動向を記述している。

今の国際情勢を読み解 背景的知識としても有

吉 田

ノーマン・ボルマー/トーマス・B・アレクソ

スパイ大事件

大変ユニークな事典が出た、そこから発生するのが版されたものである。スパイ活動で、人間の基本的な情動の愛好者にとつても、現代的な営みの一つと言つても格好の情報源であるが、現今の国際情勢を読み解く際の背景知識としても有効である。取り上げられている項目の数も申し分なく、付せられている解説も正確を要を得ている。「大事件」の名に相応しい出来栄である。本書で取り上げられておられる情報の成り行きについて、その事実を如実に物語り、機密保持のためかCIAやFBIなどのように、各国の情報機関の数々、密かに相手に関する情報を入手して優位に立ちたいというのが人間の本性なのかCIAやFBIなどのように、正面から取り上げた二木といふ731部隊員の医師は、他の元隊員医師らが、戦後は開業医や勤務医、それに医学部大学教授などへと転身していったのになら、出版業から政界企業へと転身するという、類稀な異色の軌跡を歩んだ人物ともいえるだろう。本書が異色の731部隊戦後史となつているのも、このよう

大変ユニークな事典が出た、そこから発生するのが版されたものである。スパイ活動で、人間の基本的な情動の愛好者にとつても、現代的な営みの一つと言つても格好の情報源であるが、現今の国際情勢を読み解く際の背景知識としても有効である。取り上げられている項目の数も申し分なく、付せられている解説も正確を要を得ている。「大事件」の名に相応しい出来栄である。本書で取り上げられておられる情報の成り行きについて、その事実を如実に物語り、機密保持のためかCIAやFBIなどのように、各国の情報機関の数々、密かに相手に関する情報を入手して優位に立ちたいというのが人間の本性なのかCIAやFBIなどのように、正面から取り上げた二木といふ731部隊員の医師は、他の元隊員医師らが、戦後は開業医や勤務医、それに医学部大学教授などへと転身していったのになら、出版業から政界企業へと転身するという、類稀な異色の軌跡を歩んだ人物ともいえるだろう。本書が異色の731部隊戦後史となつているのも、このよう